

伝 統

新潟県

心武館道場

中学2年 鈴木晴菜

「姿勢を正して、黙想。」

私は道場内で最高学年となり、号令をかける立場になりました。号令を掛けるときは、後輩への目配りや気配りが必要で、後輩との関わり方を考えるようになりました。

去年の冬、歯の矯正で面が着けられず、館長先生から小さい子のお世話をするように言われました。集中も続かず、小さい体なので、小まめな休憩が必要でした。伝えることの難しさを知りました。私が剣道を習い始めたとき、根気よく教えてくださった先生のおかげで、今の私がいると改めて感じました。

私が剣道を始めたのは小学二年生の時、初めての道着は道場の先輩のおさがりでした。道場の名前と、先輩の名前が入った袴を着て、稽古の帰り、スーパーの店内を走り回り母からひどく怒られました。

「剣道、道場、先輩の顔に泥を塗ったんだよ。わかる？」

そう言われ、自分の行動を恥ずかしく思いました。

道着を着ているということは、剣道を学ぶ者、どこの道場で教わっているかなど、一個人の問題ではなくなるということです。大げさですが、剣道を背負う、道場を背負う、という気持ちが必要だと思いました。おさがりをもらうということは、先輩の気持ちや道場の伝統も、一緒に受け継ぐということです。

しかし伝統とは、目に見えるものではなく感じるものです。言葉で伝えるものではありません。

それを感じる出来事がありました。小学生の錬成会の時、一人で面を外せない低学年の子のお手伝いをしました。その保護者の方から、

「どこの道場の子？」

と聞かれ、

「心武館道場です。」

と答えると、

「心武館道場さんはみんな優しいのね。」

と言われ、自分が褒められた以上に、道場を褒められ、また道場の一員として認められたような気持ちになり、とても誇らしく思いました。いつも道場の先輩たちが、優しくしてくれたおかげで、自分も優しいことができたのだと思います。

伝統とは、目に見えるものではありません。その代によって、メンバーは違い、雰囲気やカラーも違いますが、どの代も、考え方や気持ち、行動は似ているものがあると思います。

どうして、似てくるのでしょうか。それは、日々の稽古の中で、間違ったことを注意してくだ

さる先生方や、また気持ちが緩んでいると館長先生が正してくれるからです。

剣道とは、稽古を通じて人間形成を目指す武道です。すなわち、日々の稽古の積み重ねが、自分に染み込み、そして、身につき、やがてひととなり、になります。

稽古を通じて、人として正しいあり方を教えてくださる館長先生、先生方に感謝し、先輩たちから受け取った、伝統という名のバトンを、次の代へ渡していきたいです。

そして、私は胸を張って、心武館道場の鈴木晴菜です。と言える私になりたいです。